

平成28年度 赤穂市立赤穂小学校 学校評価報告書

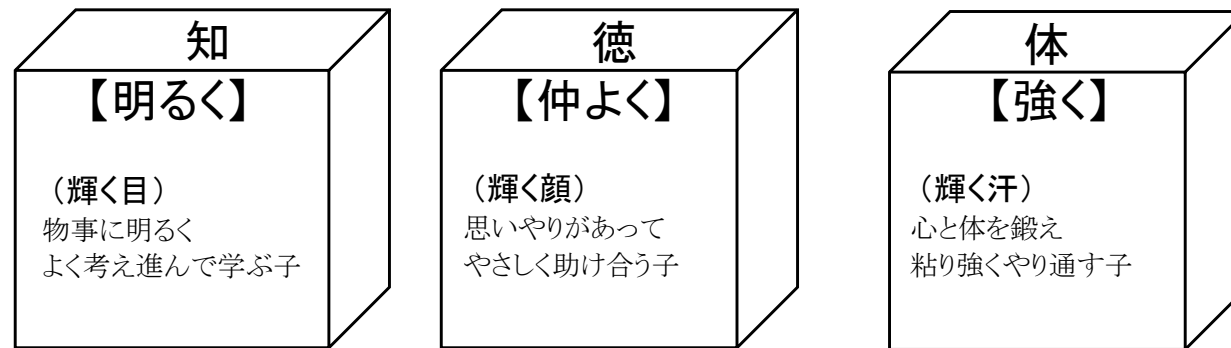
学校名 赤穂市立赤穂小学校

1 赤穂小学校の教育

(1) 教育目標

よく学び、仲よく遊ぶ ～夢を大きく 膨らませる子～

(2) 校 訓



(3) 本年度の学校経営方針

＜重点＞ ○アクティブ・ラーニング(主体的・協働的学習)の理念に基づき、指導と評価の一体化を進め、確かな学力を身につける
○子ども一人一人の内面に対する共感的な理解を深め、個性を尊重し、自他を大切にすることを培う

- (1) 基礎基本の確実な定着を図り、創造性や個性を伸ばす教育を推進する。
- (2) 夢や目標の実現に向かって進んでいくキャリアプランニング能力の育成をめざす。
- (3) 人権尊重の精神を基盤に豊かな人間性の育成をめざす。
- (4) 社会の変化に対応した教育活動を展開し、指導者としての専門性と実践的指導力の向上をめざす。
- (5) 道徳教育・体験活動を充実し、「豊かな心」を育む。
- (6) 震災に学び、共生の心を育み、自らの命を守るために主体的に行動する力を育む。
- (7) 学校・家庭・地域社会との信頼関係を確立し、地域への愛着や誇りを育む。
- (8) 学校業務改善に取り組み、子どもと向き合う時間を積極的に確保する。

(4) 本年度の学校重点目標

- ①学習指導要領を踏まえた教育課程の着実な実施
- ②特別支援教育の充実
- ③人権教育の徹底
- ④道徳教育の充実
- ⑤環境教育の推進
- ⑥「生きる力」を育む魅力ある学校づくりの推進
- ⑦心の通い合う授業を基盤とした生徒指導の充実
- ⑧「兵庫の防災教育」の充実
- ⑨学校園所・家庭・地域との連携
- ⑩福祉教育・ボランティア活動の推進
- ⑪健康教育の充実
- ⑫教職員の専門性と実践的指導力の向上

【総合的な学校関係者評価】

今年度は人権教育研究会をはじめ、オープンスクール等、授業参観をする機会が増え、赤穂小学校の雰囲気がよく分かる一年であった。子ども達、教職員とも大変雰囲気がよく、よりよい学校づくりが進められているといえる。来年度は、「学校応援ボランティア」のシステムが導入されると聞いているが、効果的に運用され、地域や保護者がより一層学校に足を運びやすい、開かれた学校づくりを進めていただきたい。

今年度の取組がよく見える形で行われたと思われる。5年生の「模擬避難所開設」は地域や家庭での地震への備えを考え直したり、子ども達のいきいきとした姿が見られたりして、よい機会であった。オープンスクールで、どの時間にどの学級を見てもよいというのが自由で参観しやすかった。次年度も継続を希望する。

若い教員が増えているが、子ども目線に近い、熱心な指導と接し方により、のびのびとした心豊かな児童が育っていると感じている。一方で厳しく指導する場面もあり、落ち着いた学校になっている。ベテラン・中間層の職員が若手と協力したりアドバイスしたり、ときにはフォローしたりしながら、資質向上に努めていくことを期待している。

子ども達が地域行事へ参加するための方策をいろいろと検討しているものの、十分な効果が得られていない現状がある。公園でのお花見等、敬老会には高学年の子ども達と一緒に一日過ごせる機会をもつなど、近所の人とのつながりをとるようにしているが、もっと多くの児童の参加を望んでいる。学校からも働きかけを行ったり、学習の中で地域貢献のすばらしさや郷土愛を育む指導を充実させたりして、地域と学校と保護者の連携がますます強くなる方策も検討していただきたい。

今後も高い理念のもとに、「よく学び、仲良く遊ぶ」子ども達に成長していけるよう祈念している。

【学校関係者評価】

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

2 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される姿)				
①学習指導要領を踏まえた教育課程の着実な実施	項目	基礎基本の定着のための指導方法の工夫や、アクティブラーニングの推進による授業改善に努めているか	教職員アンケート【3.80】	A	モジュールの時間(15分)を最大限に生かし、基礎学力の向上に努めることができた。次期「学習指導要領」への移行期にあり、指導方法も変化が生じるため、より一層、教職員研修を充実させていく必要がある。6年生での「キャリア教育推進事業」、4年生での「2分の1成人式」など、自己を見つめる学習を進めることができた。しかしながら、学年で限定的なこともあり、全学年・全領域にわたってキャリア教育の視点を広げ、指導を充実させたい。
	指標	15分間のモジュールを計画的に進める。赤穂ドリルの活用			
	項目	指導と評価の一体化を図っているか	教職員アンケート【3.62】	A	
	指標	明確な目標・多様な評価等により一人一人を伸ばす			
項目	キャリアプランニング能力の育成に努めているか	教職員アンケート【3.13】	B		
指標	夢を持ち、目標を決め、努力する児童の育成・体験活動の充実				
②特別支援教育の充実	項目	インクルーシブ教育システム構築に関する教職員の専門性の向上に努めているか	教職員アンケート【3.19】	B	赤穂中学校区カウンセラーの講話を開き、実践につなげることができた。サポートチーム会議等を活用し、SSWや赤穂市青少年育成センターとの連携を密にして、個々の対応にあたるよう努めた。今後も継続していく。しかしながら、「専門性」という点では不十分であり、今後、研究会や研修会への自主的な参加を促し、専門性を高めていきたい。
	指標	インクルーシブ教育に関する教職員研修の充実と実践			
	項目	保護者、関係機関との連携を図っているか	教職員アンケート【3.82】	A	
	指標	学級懇談会、学校・学級通信、サポート会議等、連携を密にする			
③人権教育の徹底	項目	教育活動全体を通じ命や人権を大切にすることを育てているか	教職員アンケート【3.88】	A	人権教育研究会を赤穂中学校区全体で開催し、教職員の人権感覚の研磨および児童の人権意識の高揚を図ることができた。家庭との連携を図るため、「赤小メディア宣言」運動を行ってきたものの定着が難しいのが現状である。次年度は宣言の見直しを含め、宣言の遵守をさらに促したい。
	指標	道徳教育の充実・人権コーナーの設置、児童のポスター作成			
	項目	いじめ、インターネットによる人権侵害等、今日的な人権課題に対する理解の促進を図っているか	教職員アンケート【3.51】	A	
	指標	いじめやネットモラルに関する資料による学習の充実 教育講演会へ保護者の参加・赤小メディア宣言			
④道徳教育の充実	項目	全教育活動の中で、道徳性の育成に努めているか	教職員アンケート【3.14】	B	人権教育研究会を赤穂中学校区全体で開催にあたり、人権教育だけでなく道徳教育の充実も図ることができた。しかしながら、次期「学習指導要領」で道徳の教科化が行われる見通しとなり、指導方法については試行錯誤の段階である。引き続き教職員研修を充実させ、指導力を高めていきたい。
	指標	道徳養育の充実・道徳教育に関する校内研修会			
	項目	道徳の授業時数を確保し、指導法の工夫や研究に努めているか	教職員アンケート【3.28】	B	
	指標	道徳の授業実施、問題解決的学習や体験学習の充実			
⑤環境教育の推進	項目	自然や命あるものとのふれあいを通して、自然に対する豊かな感性や命を尊ぶ心の育成に努めているか	教職員アンケート【3.24】	B	3年生の環境体験学習、5年生の自然学校など、特色ある環境学習を行うことができた。全学年にわたり、さらに充実させていきたい。
	指標	兵庫県副読本等の活用、環境体験学習の充実			
⑥「生きる力」を育む魅力ある学校づくりの推進	項目	環境整備を年間を通して意図的・計画的に行っているか	教職員アンケート【3.22】	B	PTAげんこつクラブの活動等、赤穂小学校の教育活動へ積極的に参加いただく保護者の皆様に感謝を申し上げます。長年の要望であった大規模改修も来年度実施される見通しとなり、学校教育環境の充実が来年度より一層図れるようにしたい。また、金管バンドクラブやコーラス部によるラストコンサートなど演奏会も開催することができ、赤穂小学校の魅力ある活動を今後も発展させていきたい。
	指標	安全点検の実施、げんこつクラブによる環境整備活動			
	項目	特色ある教育活動の推進に努めているか	教職員アンケート【3.72】	B	
	指標	運動会・音楽会等の行事の充実、5年生による避難所開設・防災学習など総合的な学習の時間の充実 金管バンドクラブ・コーラス部など特別クラブの活動			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	◎	オープンスクールでの参観を通して、先生方が前向きに授業に取り組み、個性を生かした授業が工夫されていると感じた。数年前より業務が増えていると聞いているが、 unnecessary業務を削減し、先生方が明るく、研修を深め合える職場環境をまず整えていくことが大切だと考える。子ども達のために引き続き研鑽されることを願っている。
○	○	全ての子ども達が学ぶ楽しさを味わえるように、家庭・地域と連携して、いじめの早期発見、早期対応に努めてほしい。先生方も積極的に育成センター主催の研修会や他機関の講演会に足を運び、研修を深めていただきたい。
○	○	赤穂小学校の伝統として、学校・保護者・地域は比較的良好な関係を築けており、今後もその姿勢を大切にしてほしい。問題発生時には、早期に力となる保護者に協力を求め、解決への方向へと共に進んでいただきたい。 育成センター主催の講演会で、情報メディアに関する講演会があったが、小学生のうちから携帯・スマホの危険を認知したり、人権侵害について理解を深めたりする必要があると感じた。学校での学習をより一層進めてほしい。
◎	○	道徳の授業が、わかりやすく、内容の濃いものであってほしい。今後も校内研修を続け、授業の工夫を続けてほしい。
◎	◎	自然学校は子ども達からも「楽しかった」「楽しんだ」という声を聞いている。学校ではできない体験の機会を充実させてほしい。
◎	◎	赤穂小学校は特色ある教育活動が推進されているといえる。地域住民にとっては、新聞記事になるようなよい取組をうれしく思う。今後も先生方の個性を生かした魅力ある学校づくりに取り組んでほしい。 大規模改修は皆が望んでいたことであり、よりよい教育環境になることを期待する。

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される姿)				
⑦心の通い合う授業を基盤とした生徒指導の充実	項目	一人一人の内面理解に努め、人間的なふれあいを基盤とした生徒指導を推進しているか	教職員アンケート【3.17】	B	休み時間に共に遊ぶよう教職員が心がけ、児童とふれあう時間の確保に努めた。問題行動に対する指導について、その内容理解や児童・保護者の思いを汲み取った上で、ていねいな対応が必要である。また、学校に来にくくなっている児童を大切な一人として学校全体で理解し、心の居場所づくりを継続的に進めていく。教職員の積極的な研修会への参加も図っていく。
	指標	児童と共に遊ぶ教職員の姿カウンセリングの活用			
	項目	好ましい人間関係、児童の心の居場所づくりに努めているか	教職員アンケート【3.25】	B	
	指標	道徳・人権教育の充実、学級経営に関する研修会への参加			
⑧「兵庫の防災教育」の充実	項目	防災教育副読本「明日に生きる」等を活用し、災害から命を守る主体的な行動力を養っているか	教職員アンケート【3.29】	B	1学期、5年生による模擬避難所開設を行い、防災意識を学校全体で高めることができた。防災教育副読本の活用も図りつつ、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震など、日頃から防災意識を高くもち、教訓を生かせるようにしていきたい。危機対応マニュアルを策定しているものの、憂慮時の役割など共通理解が不十分な点も反省点として見られたため、避難訓練の事前事後指導も含めた学習や共通理解の機会を充実させたい。
	指標	防災教育副読本「明日に生きる」の活用、避難訓練の実施			
	項目	実効ある危機対応マニュアルを策定し、危機管理体制が構築されているか	教職員アンケート【3.05】	B	
	指標	危機対応マニュアルの策定・引き渡し訓練の実施			
⑨学校園所・家庭・地域との連携	項目	家庭や地域への情報発信を十分に行っているか	教職員アンケート【3.77】	A	定期的な学校通信・学級通信の発行に努めた。不定期ではあるがホームページの更新も行い、広く学校の情報を発信できたものとして考えられるが、閲覧者が興味・関心を持てるような内容や更新回数になるようにしていきたい。読書ボランティアとして来校していただくことで、児童の読書の幅が広がった。次年度は、「学校応援ボランティア」としてさらに幅広く支援を依頼し、保護者の学校への理解と協力を促し、児童の学習効果を高めていきたい。
	指標	学校通信・学級通信・ホームページによる情報発信			
	項目	地域人材や地域教材の活用に取り組んでいるか	教職員アンケート【3.69】	A	
	指標	ゲストティーチャーの活用、読書ボランティア制度の導入			
項目	家庭や地域との連携・協力は図られているか	教職員アンケート【3.98】	A		
指標	生活科や総合的な学習の時間、校外学習での保護者ボランティアの募集と保護者の参加、「学問のすすめ」による家庭との連携電話や家庭訪問など連携を密にする				
⑩福祉教育・ボランティア活動の推進	項目	高齢者や障がいのある人などへの理解を深めているか	教職員アンケート【3.54】	A	2年生・5年生が高齢者施設訪問、4年生でアイマスク体験等、他学年で福祉教育を展開できた。今後も継続していきたい。
	指標	高齢者施設訪問・学習ボランティアの参加			
⑪健康教育の充実	項目	発達段階に応じた性教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の充実に努めているか	教職員アンケート【3.23】	B	「学習指導要領」に基づき、保健学習を展開できた。今後は児童が主体的・対話的に学ぶ指導方法の工夫や充実に努めたい。体力の向上について、運動委員会が主催した運動イベントにより、冬季でも多くの児童が運動場に出る姿が見られた。児童自身が体を動かすことの大切さに気付くことができるよう、指導・支援していく。
	指標	保健の学習の充実・講師を招いた「命を守る教育」の実践			
	項目	体育の時間や業間・昼休み等を活用して外遊びをする等、体力の向上を図っているか	教職員アンケート【3.69】	A	
	指標	体育の時間の充実、業間マラソンの実施、児童主催の運動イベント			
⑫教職員の専門性と実践的指導力の向上	項目	教育公務員としての使命感・倫理観の自覚ができていますか	教職員アンケート【3.98】	A	管理職の指導のもと、教育公務員としての倫理観を高める講話や共通理解の場を重ねた。校内研修を教職員が自主的に進め、専門職としての力量に努めた。しかしながら、力量の向上はさらに必要であり、自主的な研修と実践を継続できるようにする。
	指標	教職員研修の充実長期休業中の研究会・研修会参加			
	項目	専門職としての力量をみがく、主体的な研修と実践が行われているか	教職員アンケート【3.98】	A	
	指標	校内研修「夢を語る会」の充実、研究授業の実施			

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
○	○	『Happy Box』という取組を福岡県で実施している。いじめ撲滅運動の一環として一人の中学生の提言を取り入れている。児童の声に耳を傾け、一人一人の内面を理解し、問題の早期発見、心の居場所づくりに努めてほしい。
◎	◎	地域を巻き込んだ防災教育が充実してきている。今後も定期的に訓練し、地域と連携して継続していくことを期待している。
◎	◎	「学校応援ボランティア」はよい取組であり、来年度の活動に期待する。保護者や地域住民が学校に足を運び、学校への理解を深めるとともに、子ども達が楽しいと思える学校づくりに協力したい。全学年で「昔なつかしい遊び」をするのはどうか。その際には地域の参加を促し、協力したい。
◎	◎	今後の継続した指導を期待する。地域・福祉関係施設との連携をより一層図るべきである。
◎	◎	5月の運動会開催は、準備が大変だと思うが、気候もよく、体がよく動く時期である。楽しみにしている。
◎	◎	「校長が変われば学校が変わる」と言われるように、校長のリーダーシップのもと、よき職員室の雰囲気を作り出している。今後ますます、教職員研修を充実させ、赤穂小学校の先生方が力量を高められることを期待する。

【自己評価における特記事項】

※達成状況の評価は、評価平均点を示しており、下記の点数で自己点検を行い、教職員数で平均している。

A:達成した…4ポイント B:ほぼ達成した…3ポイント C:あまり達成できなかった…2ポイント D:達成できなかった…1ポイント

※職務内容が異なることから、評価項目全て当てはまるとは限らない。また、最終的に「児童アンケート」「保護者アンケート」を考慮した上で、達成状況の評価を決定している。

※達成状況で、評定点数が「3.5以上」をA、「2.8以上3.5未満」をB、「2.8未満」をCとしている。

【項目以外の点で次年度の課題や具体的改善方法】

今春より、赤穂市でも「こども食堂」が運営される。青少年育成の活動における『子どもの居場所づくり』というテーマの中で実際にきちんと食事がとれていない子どもがいるのが現状である。学校も主任児童委員、福祉関係の方等と連携して、活用を図る方策も検討する。全ての子どもが安全・安心の生活を送れるように、という視点を大切にしていきたい。